
武器は嘘をつかない

ふも

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

武器は嘘をつかない

【コード】

N2666N

【作者名】

ふも

【あらすじ】

SAO短編二次創作、リズベットとキリトをくつつけてみた。初投稿かつ短いので、アドバイス、感想等ありましたらお願いします

m () m

(前書き)

超短編。どうしてこうなった…。

「ただいま、リズ。」

「あ、おかえり、キリト。」

ここはアインクラッド第48層主街区リンダースのとある一角、「リズベット武具店」。リズことリズベットの店である。俺はとある一件以来、ここに毎日帰る様になった。

「今日もメンテ頼むよ。今日はちょっと使い込んだし。」

そう言ってるリズに装備を預ける。武器のメンテという毎日帰る名目はあるが、それはまさに名目でしかなく、ひとえにリズに会うために帰ってきている。

「そうなの？どのくらい…てうわ。」

俺から受け取った武器のステータスを確認したリズベットは、驚いた後に呆れ顔になった。

「あのね…、あたしの『ダークリパルサー』は今までで最高の出来なのよ。その武器がなんで一日でこんなに消耗してるのよ！」

呆れから怒りに変わって俺に怒鳴ってくるリズ。そんな顔も可愛いと最近思えるようになった。

「いや、今日闘ったトカゲ男が予想よりずっと強くてさ…。次からもうちょっと大切に扱うよ。」

頭の後ろを搔きつつ答える。そんな俺の様子が気に入らないのか、リズはさらに語調を強めた。

「あのね！あたしが心配してるのは武器のことじゃないの！」

そういつて正面から抱きついてくる。リアルの俺ならよろけてしまっただろうが、ここならパラメータ補正のおかげでそういうこともない。

「武器を見ればわかるのよ。キリトがどれだけがんばってるか。」

リズははそのまま、フィールドだとダメージが発生しそうな強さで抱きしめてくる。

「だから怖い。キリトがどれだけ危険な目にあってるかも分からから。」

そこまでいわれて、俺はやっと理解した。今までは誰かが死ぬくらいなら自分が死んだ方がマシだと思っていた。でも、俺が死んだらリズが悲しむ。リズを悲しませないために、俺は死ぬことはできないと。

「ごめん、俺は分かってなかった。」

そういつてリズの小さな体を抱きしめる。そうするとあの雪山での夜のことが頭をよぎる。人の温もりにふれることの喜びが。

「大丈夫。俺は死なない。生きて、リズと現実で会うまでは。」

俺は宣言する。

「現実で会って、また一緒に道を歩きたい。」

この愛しい少女を

「リズを悲しませるようなことは、絶対しない。だから……」

護り続けると。

「結婚しよう。」

リズがぽかんとした顔で俺を見上げてくる。その顔は真っ赤だ。俺の顔も似たようなもんだろう。しばらくそのまま見つめ合っていたが、リズは満面の笑みを浮かべて

「はい……。」

そう答えてくれた。俺はその顔に唇を重ねた。

(後書き)

実は書き始めた当初では、結婚させる気は全くなかったです(^_^)

ただ書いてる途中で、キリトが結婚したい結婚したいと言っている
ような気がして)ry

ご意見、ご感想お待ちしておりますm(_)_m

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2666n/>

武器は嘘をつかない

2010年10月10日15時12分発行